HIROSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL MEDICAL-DENTAL LIAISON NEWS

広島大学病院ニュース

第7号
2006年6月

広島大学病院の理念

わたし達は，国民の健康と福祉の向上のために，次の理念を掲げています。

患者さま中心の全人的医療を行います。

優れた医療人を育成します。

新しい医療を開発します。

地域に信頼される
広島大学病院を目指して

広島大学病院病院長　浅 原 利 正

広島大学病院は広島大学と共に法人化して２年を経過しました。法人化後は従来とは違って，前もって決められた一定の交付金（毎年減額されますが）と病院収入のみで運営されています。

我々医療人にとって，我が国がこれまで経験したことの無い未曾有の超高齢化社会と急速に進歩・発展する医学を背景に新しい医療・医療制度のもとで，真に国民の期待に応える医療の実現が問われていると思います。

広島大学病院では優れた医療人の育成を最重要課題としてとらえ，新しい医療の開発，高度先進医療の実践，安全で質の高い医療の提供を，我々に与えられた重要な使命として運営しなくてはなりません。法人化後は病院業務の見直し，人材の有効活用などに努め，さらに患者サービスの向上，医療安全管理体制の強化のために看護師，臨床検査技師，薬剤師，臨床放射線技師，理学療法士，作業療法士，視能訓練士，言語聴覚士，歯科衛生士，臨床工学技士，診療情報管理士，病棟・外来クラーク，技能・事務補佐員などの採用，増員，待遇改善に取り組んで参りました。

さらに今後は一層の業務の効率化，無駄の排除，医療安全管理に努めるため，ISO9001認証取得作業の継続，業務の見直し，接遇研修や安全管理研修を充実させ，従来の国の機関であった組織から民間的手法を取り入れた病院運営へと大きく転換し，経営基盤を確立した上で，我々の使命を果たさなくてはなりません。21世紀医療へ対応できる優れた医療人の育成のためには医師・歯科医師を始めとした医療人の生涯教育センターとしての「教育・研修センター」の充実・強化を図り，加えて21世紀医療の最重要課題である生活習慣病への対応の一環として「がん治療センター」を設置し，新しい医療機能に対応できる新中央診療・外来棟の建設計画も検討中です。

広島大学病院が地域の基幹病院としてその使命を果たすために，「地域に信頼される病院」「職員が働きやすい病院」を目指して一層の工夫，改善に継続して取り組みたいと思います。多くの方のご理解とご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

進化する大学病院

広島大学病院主席副病院長　**岡 本 哲 治**

この度，引き続き広島大学病院の主席副病院長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願い申し上げます。

本院の歯科診療部門では，一般歯科治療から癌治療まで、地域の中核病院として高度な歯科医療を提供して参りました。一方，大学病院には，優れた医療人を輩出するための教育病院として，また地域の医療人の生涯学習の場としての重要な責務があります。「臨床実習教育研修センター」では，医師，歯科医師の卒後臨床研修，歯科衛生士，歯科技工士の卒前及び卒後の臨床研修，さらに生涯教育の充実を図り，これまで以上に優れた医療人を送り出し，新たな社会貢献を果たしたいと考えていますので，何卒ご協力の程お願いいたします。

先端医療としては，ヒト細胞治療のための「細胞培養室」および「細胞移植治療室」を院内整備し，患者様の自己細胞を積極的に利用した「幹細胞移植療法による歯周組織再生治療」や「活性化NK/リンパ球を用いた口腔癌治療」など本邦では本院にしかない「オンリーワンの歯科医療」を実践しています。今後は，遺伝子（ゲノム）および蛋白質科学（プロテオミクス）情報に裏付けられた診断・治療および予知・予防医療を積極的に開発・導入し，世界でも類をみない少子超高齢社会における医療を構築するための基盤を構築していきたいと考えています。

国立大学法人として，健全な経営のもと，大学病院の大きな使命を果たすために，本院の理念である，「患者様中心の全人的医療の提供」，「優れた医療人の育成」，「新しい医療の開発」を達成すべく，全職員が一丸となり取り組んで参ります。また，医療の質の向上、医療安全のための基盤強化に努めるとともに、広島大学病院の持つ人的・物的資源を最大かつ有効に投入して，皆様の健康を守り，皆様に満足していただける病院であり続けるよう努力いたしますので，今後ともご支援とご理解を賜りますよう，何卒よろしくお願い申し上げます。

すばらしい医療人の湧き出す「泉」から「大河」へ

広島大学病院副病院長（教育研修担当）　松本昌泰

この度，平成18年４月１日付けで副病院長（教育研修担当）を拝命いたしました。

「優れた医療人の育成」は，広島大学病院の理念に掲げる最も重要な社会的責務の一つであり，その重責に身の引き締まる思いです。

では，「優れた医療人」とはどのような医療人でしょうか。まず，一定水準以上の医学的知識や技量を持ち，日々進歩する新しい医学的知識や技量の取得に不断の努力を惜しまない専門職としての自覚が求められます。また，その専門的な知識や技量を活かして，病気と闘うのは勿論のこと，チーム医療を担う責任ある一員として，他の医療スタッフとの円滑なコミュニケーションを図る努力も欠かせません。しかしながら，このような努力にもまして医療人に求められるのが，人に対する優しさや誠実さではないでしょうか。また，患者さんやその親類縁者の方々からの信頼無くしては，最善の医療を提供することはできません。したがって，社会人としての一定水準以上の礼儀や節度，常識をわきまえ，医療人以前の「人」として信頼される存在になることがまず求められています。

広島大学病院では，このような心優しい，優れた医療人の育成をめざして，医学・医療の知識教育は勿論のこと，新入生の初期臨床体験実習，チーム医療におけるコミュニケーションスキルの向上をめざした取り組み，新しい卒後研修制度に対応した卒後臨床研修センターの立ち上げ，病院職員全員に対する接遇研修の実施など，多くの努力を重ねてきています。しかしながら，医療人の育成に際して欠かせない最も重要な貢献が，患者さんやご家族の方々のご協力であることは，過去から今日まで何ら変わっておりません。日頃のご協力に対しまして，心より感謝致しますとともに，今後ともご協力頂きますよう，この場を借りましてお願い申し上げます。なお，患者さんやご家族からのお叱りの言葉も，良い医療を提供し，優れた医療人の育成をめざす上で欠かせないことは言うまでもありません。是非，忌憚のないご意見を外来の投書箱に頂ければと思います。広島大学病院が，本来のすばらしい医療を提供しつつ，優れた医療人がこんこんと湧き出す「泉」から「清流」そして「大河」になることに少しでもお役に立てるよう努力してまいりたいと存じますので，みなさまのご協力を何卒宜しくお願い致します。

地域連携室のご利用を!

広島大学病院病院長補佐（地域連携室担当）　栗 栖　　薫

2006年４月１日付けにて広島大学病院病院長補佐（地域連携室担当）を拝命しました栗栖　薫（脳神経外科科長）です。どうぞ宜しくお願い致します。

広島大学病院に地域連携室が設置されて１年が経過しました。この間，多くの患者さんの受け入れや（表１）転院・退院のお手伝いをしてきました。我々の地域連携室の存在も徐々に知れ渡り地域の医療機関もかなり利用して下さるようになっています。昨年度の広島大学病院の入院患者さんの平均的な入院期間は18.7日でした。また700床の病棟の平均稼働率は90.6％で，全国の大学病院の中では第4位でしたが，患者さんのスムースな受け入れがまだまだ満足に出来ているとは思っていません。全ての病院が同じような機能を持って同じような診療を行う時代は急速に過ぎつつあります。医療の内容がより専門化・複雑化してきた現在では，患者さんの病気の状態や経過などに応じて，それぞれの医療機関が協力してより良い医療をより的確に患者さんに行わなければなりません。私たちの地域連携室がそういう「患者さんのニーズに応じたスムースな対応」が出来るよう室員一同努力して参ります。図１に具体的な地域連携室を介した受診の流れが示されています。最寄りの医療機関に相談して，是非，このシステムをご利用下さい。あらかじめご連絡頂くことにより，受診当日のスムースな流れができるよう対応します。詳しくは，広島大学病院ホームページ（http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/c2-02/renkei/index.html）をご参照下さい。

また，セカンドオピニオンということを多くの患者さんがご存じと思います。セカンドオピニオンを広島大学病院全体として系統的に受け入れが出来るよう現在鋭意準備中です。近々ご報告できると思いますので，ご期待下さい。

表1

平成17年度紹介患者数計　813件
紹介元医療機関数　224機関

2006．3．31現在

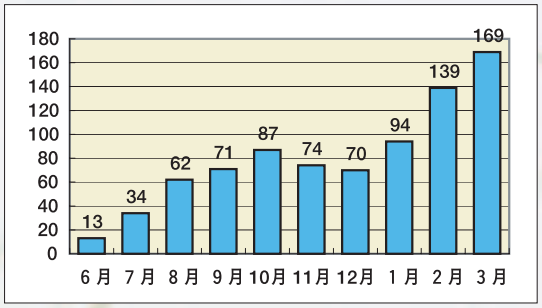
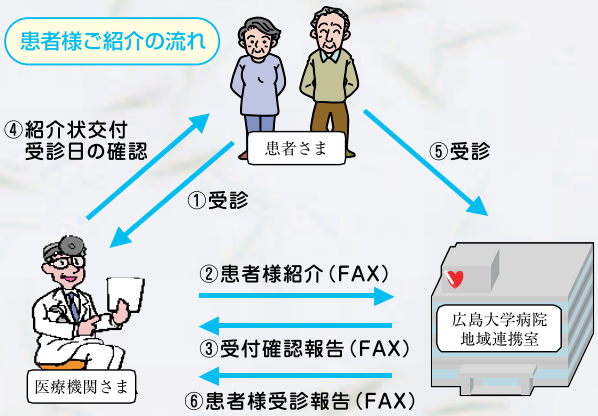


図1



安心かつ安全な
医療の提供を目指して

広島大学病院病院長補佐　平川勝洋

平成18年4月1日より，広島大学病院病院長補佐を拝命しました。医療安全管理部と栄養管理部を担当します。

昨年の12月に発行された，広島大学病院ニュース第6号に医療安全管理部の紹介がされたばかりですが，もう一度紹介させていただきます。

医療安全管理部は医療安全管理室と感染管理室で構成されています。“人間であれば誰でもエラーをおかす”というのは事実であり，エラーを０（ゼロ）にすることは不可能かもしれませんが，できるだけ０に近づけることはできると思います。そのため医療安全管理室では，“自分がおかした過ちは誰でもが起こし得ること”として，医療の現場でヒヤリとしたこと，ハッとしたことを報告してもらい，集計しその原因を分析しています。そして，ヒヤリ，ハッとした事実と原因を医師，看護師，薬剤師をはじめとする医療従事者のみならず病院勤務者全員で共有し，再発防止の方策を検討します。このような作業を通して，些細なミスから重大な事故を防止し，患者さまにとって安心かつ安全な医療を提供することを最終目的として活動しています。小さなミスの分析から大きな事故防止のための実績は，徐々にではありますがあがっていると思います。よりきめの細かい分析，現場との迅速な情報交換によって目的達成に努力したいと思っています。

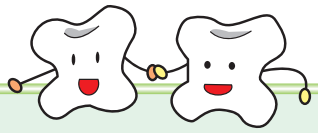
感染管理室では，病院内の感染に関する対策の立案，感染予防のための病院職員の啓発活動によって意識の向上を図ることを目的に活動しています。具体的な主な業務としては，定期的に院内を巡視し個別に指導したり，研修会などを企画し，病院従事者全員の感染予防に対する意識向上を図る活動をおこなっています。

栄養管理部では，医師，看護師，管理栄養士，薬剤師など多業種の医療従事者が連携をとって，患者さまの食事及び栄養管理・栄養指導を円滑・適正に実施し，患者さまの栄養改善，健康の増進，ひいては生活の質の向上を図ることを目的としています。

患者さまにとって，安全な医療を提供できる，また安心して入院生活を送っていただける環境作りのために精一杯尽力する所存です。皆様のご支援，ご指導をよろしくお願い申しあげます。

脊椎・脊椎外科診療科のご紹介

広島大学病院整形外科の脊椎・脊髄外科外来では，脊椎，脊髄疾患の診察，治療を行っております。腰痛や肩こりなどの日常的な病気から，脊髄腫瘍などの特殊な疾患まで広い分野を担当しています。最近では高齢者の増加に伴い，頚椎症性脊髄症や腰部脊柱管狭窄症などの疾患を治療する機会が増えています。

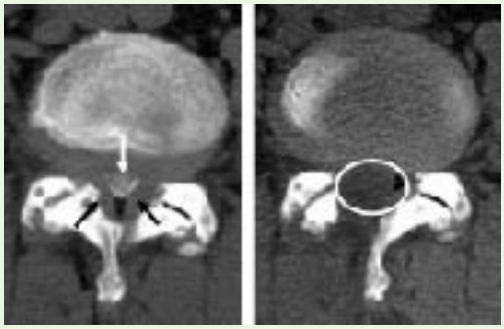


頚椎症性脊髄症について

椎間板ヘルニアや加齢によって生じた骨棘（骨のトゲ）などにより，脊柱管（脊髄神経の通る管）内で脊髄が圧迫されて起こる病気です。手足のしびれで発症し，進行すると運動麻痺や排便排尿障害を起こし，重篤な後遺症を生じることもあり，正確な診断と適切な治療が必要です。私たちはMRI，CTなどの画像診断に加えて，脊髄機能の客観的診断法として，頭蓋磁気刺激法を用いた運動誘発電位測定を行っており，これまでに1000人以上の患者さんの検査を行っています。この検査により脊髄・神経の障害が診断でき，早期診断，他の病気との鑑別，あるいは安全で正確な手術が可能となっています。

腰部脊柱管狭窄症について

頚椎症性脊髄症と同様に，椎間板ヘルニアや加齢によって腰の脊柱管が狭くなり，神経が圧迫されて起こる病気です。足のしびれ，痛みが主な症状ですが，間歇跛行（かんけつはこう）という症状が特徴的です。これは長い距離を歩くと足の痛み・しびれが強くなり歩けなくなるものです。しかし座ってしばらく休むとまた歩けるようになるのが特徴です。激痛を伴う場合としびれが主体の場合があり，閉塞性動脈硬化症などの足の血流障害と似た症状のこともありますので，早めの専門医の診察が大切です。薬や注射などの治療が一般的ですが，痛みが強い場合や長い距離が歩けずにお困りの方には手術による脊柱管の拡大を行っております。最近では脊椎内視鏡を使用して手術を行っており，手術後の痛みも少なく，患者さんにも大変好評です。　診療は6名の専門医が担当しており，初診日は毎週火曜日，再診日（予約制）は毎週木曜日です。お困りのこと，気になることがございましたら整形外科までお気軽にご相談下さい。



左図：腰部脊柱管狭窄。神経（白矢印）は狭窄されています。
右図：手術により脊柱管が拡大され神経の通り道は広がっています。（白丸）

整形外科外来 ☎257-5470

むし歯・変色歯診療科

「白くきれいな歯と美しい笑顔」は健康の証！ です。当科では，なるべく削らないむし歯の治療と予防，今話題のホワイトニングをはじめとする審美歯科治療，あの嫌な音や痛みから解放されるレーザー治療，歯の神経や歯周病の治療と予防などを行っています。そして，患者さまのＱＯＬ向上に少しでも役立つよう頑張っています。

ホワイトニング

今までは，神経を取り歯の周りをバリバリ削って白い冠をかぶせるしか方法がありませんでした。最近では，歯の漂白や歯の接着材を駆使して，ほとんど削らないで白いきれいな歯になります。

レーザーによる歯科治療

レーザーでむし歯を削る

麻酔の注射：いらない
音　　：静か
振動　　：なし

◆今までのドリルに替わる治療です◆

※症例により適応とならない場合もあります。

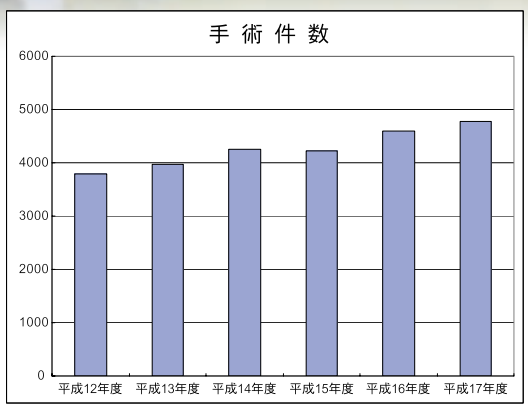
歯科領域では唯一個室を配備し，
患者さまのプライバシーにも配慮しています。

お問合せ：**TEL 082-257-5751　FAX 082-257-5756**
http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/d-06/index.html

手術部の紹介

朝のミーティング

手術件数推移



人工心肺装置を用いた心臓手術

関節鏡下靭帯再建術

手術部は築30年を迎えた中央診療棟の3階にあり，現在手術室9室で運用されています。職員は医師４名，看護師41名，臨床工学技士1名，薬剤師1名，事務職員2名，看護補助者6名の構成です。平成17年度の手術件数は4774件（前年比184件増）で，その内1070件（前年比131件増）が緊急手術となっています。これは，平成17年に高度救命救急センターが開設され救急患者の受け入れ件数が増加したためと考えられます。医学部・歯学部の病院統合後は歯科手術室（2室、年間手術件数約400件）の運用も手術看護を中心に行っています。

近年，EBM(evidence based medicine)に基づいた手術室運用の改善を積極的に行っています。エアシャワーの廃止，ブラシによる手洗いの廃止などは記憶に新しいところです。また，手術関連材料の病院中央管理がスタートし無駄のない運営をめざしています。さらに，安全で良質な手術医療を提供するため昨年12月にISO9001の認証を受けました。

ここ数年，生体肝移植をはじめとする高度先進医療に対応するため多くの医療機器が導入され手術室内の整備がなされてきましたが，18年度はさらなるニーズに対応するため最新の設備を完備した手術室を1室増築いたします。現有9室の運用と平行しての工事となるため工期が長くなりますが，平成19年1月には10室体制になる予定です。現在，新中央診療棟構想が検討されております。将来的には3年前に完成した新病棟とリンクした高機能手術室の構築を目指しております。患者様に安心して手術を受けていただけるようにスタッフ一同頑張りますので，どうぞよろしくお願いいたします。

中央点滴室が開設されました！

Outpatient Chemotherapy Unit（OCU）

中央点滴室は，がんの外来集中治療室です

連絡先：中央点滴室　TEL　082−257−5963・6039

楢原啓之室長
（臨床腫瘍学教授）

中央点滴室入り口

受付

1．中央点滴室は，あらゆる臓器のがん，慢性関節リウマチ，クローン病などの病気の点滴を専門的に行います。がん化学療法看護認定看護師の小谷早苗さんを中心に医師・薬剤師と連携してチーム医療を実践しています。専任のスタッフが横断的な知識を持ち，副作用対策（支持療法）が万全です。

2．音楽を聴きながらリラックスして点滴をうけられます。
液晶テレビを患者様に１台ずつ完備しマッサージチェアも４台あります。

3．EBM（Evidence Based Medicine）に基づく最新の標準治療と臨床試験のプロトコールをあらかじめ院内で統一して登録し腫瘍内科医（メディカルオンコロジスト）が監査しています。

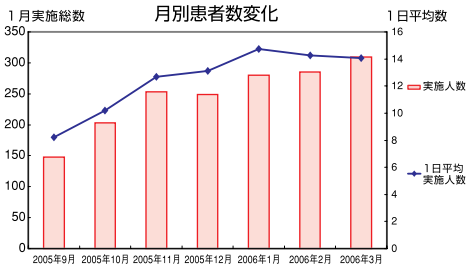
4．血液検査の結果が判明後，点滴薬はただちにクリーンベンチで無菌調製され，正確な投与量と投与時間が守られます。

5．場所は病院外来棟１階放射線科受付の向かいです。

6．緩和ケアチーム，放射線科とともにがん治療センターを構成しています。

専任スタッフ
（左から上瀬，酒井，小谷）

治療風景



中央点滴室稼働状況

広島大学病院のホームページのご紹介

分かりやすく見やすいページづくりを心がけていこうと思いますので，引き続きご愛顧のほど，よろしくお願いいたします。

■ご意見やご感想を下記へお願いいたします。

広島大学病院 広報委員会（経営企画室広報担当）
〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号　Tel 082-257-5555　Fax 082-257-5074

http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/index.html